

<b>中期目標 (学校ビジョン)</b>	1 主体的に学び、自分の言葉で表現できる生徒を育成する。 2 チームで取り組む経験を通し、互いの多様性を知るとともに自己有用感を高める。 3 地域連携の主体となり、地域に根差した学校としての役割を果たす。	<b>今年度の重点目標</b>
		1. 授業に集中 ①高校生活や授業におけるルールやマナーの徹底 ②生徒の自宅学習時間の確保 ③AL9の視点による公開授業等の実施 2. 行事で団結・部活は熱中 ①地域から信頼される学校づくり ②生徒の悩みへの的確な対応 ③学習との両立を意識した計画的・効率的な部活動運営 3. 進路に挑戦 《探究》地元大学との積極的な連携、高い志望に挑戦 《総合》多様な進路に対応、第一志望を目指す 《体育》全国を目指す、基礎学力を確実に育成 ①進路実現に向けて努力している生徒の割合の増加 ②国公立大合格者数の増加 4. 学校業務改善の取組を進め、生徒への学習・生活・進路指導等の充実を図る

評価項目	評価の具体項目	年度当初			評価結果(3)月		
		現状(令和元年度実績等)	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
授業に集中	高校生活や授業におけるルールやマナーの徹底	98%の生徒が学校で定められたルールやマナーを守ることができ(保護者99%、職員98%)、91%の生徒が授業の予鈴で着席する等、授業時間を大切にしている(職員100%)。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールやマナーを守るよう心がけている生徒の割合(98%以上)【学校評価アンケート】</li> <li>・スマートフォンの利用について、ルールやマナーの徹底を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自律的にルールやマナーを守ろうとする八頭高生の育成を目指し、挨拶の重要性やマナーの遵守について粘り強い指導を行い、様々な機会を捉えて保護者の理解を図るとともに、生徒に対しては「伝わる」指導を行う。</li> <li>・学校評価アンケートの結果を分析し、教育活動の改善に生かす。</li> <li>・生徒保健委員会メディア調査を毎年実施し、保護者との連携を図りながらルールづくりを進めるなどとしてスマートフォンの長時間利用者の指導を継続する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価アンケートでは、ルールやマナーを守るよう心がけている生徒の割合は98%(保護者98%、職員99%)であり、数値目標は達成された。</li> <li>・生徒保健委員会メディア調査を通じたスマートフォンの使用に関する啓発活動やLHR等を活用した指導を年間を通じて実施し、ルールやマナーの徹底に取り組んだ。</li> <li>・職員による挨拶運動や自発的な声かけを通じて、爽やかな挨拶ができる生徒が大勢いる。定期的な頭髪服装指導などにより大半の生徒の着なしも良好である。マナー指導についても、生徒の内面へ訴える指導により自律的に遵守しようとする生徒が増えてきている。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価アンケートによる学校目標は達成されており、今後も維持できるように継続していく。</li> <li>・生徒保健委員会によるメディア利用に関する啓発活動や職員による指導は継続していき、次年度はPTAとの連携を深めて家庭でのスマートフォン等の利用について指導方法の改善を図っていく。</li> <li>・登下校中のマナーについては改善傾向ではあるが、来年度も地域で愛される八頭高生という視点で様々な場面で内面に訴える指導を継続していく。</li> </ul>
	生徒の自宅学習時間の確保	1日当たりの自宅学習時間平均(11月)は、1年83分、2年80分、3年166分であり、1年2時間以上25%、2年3時間以上4%、3年4時間以上30%である。コース別・学年別の自宅学習時間は体育コース(1年39分、2年19分、3年19分)、1年探究・総合コース78分、総合コース(2年64分、3年144分)、探究コース(2年89分、3年265分)である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の自宅学習時間(1,2,3年別の時間(分))【それぞれ1、2年90分、3年200分以上】【自宅学習時間調査】</li> <li>・クラス担任と教科担任、部顧問等が連携し、生徒の自宅学習時間の確保に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス担任が学習時間調査をもとに、個別面談で具体的な学習内容の状況についてフィードバックを行うだけでなく、教科担任も適宜面談を実施するなどして、学習進捗状況を確認したり、効果的な学習指導となるよう留意する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自宅学習時間調査(11月実施)によると、1日あたりの学習時間は、1年生102分、2年生91分、3年生144分であり、1、2年生の数値目標は達成された。しかし、1年生2時間以上は35%、2年生2時間以上は28%、3年生3時間以上は38%という結果であり、6月調査と比べて全般的に減少している。</li> <li>・学校評価アンケートによると、毎日自宅学習を行うよう積極的に指導している教員は74%である。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス担任が学習時間の少ない生徒を把握し、教科担当者や部活動顧問と協力しながら面談等の指導を継続していく。</li> <li>・教員が、授業と自宅学習が有機的に繋がるよう工夫することが大切である。授業、部活動など学校生活の様々な場面で学習に対する生徒の意識レベルを上げる指導を心掛けていく。</li> </ul>
	AL9の視点による公開授業等の実施	全教科(延べ17名)において研究・公開授業を実施した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・AL9の視点をもって、全教科で公開授業等を実施する。【実施教科数】</li> <li>・ALの推進及び高大接続改革への対応に学校をあげて取組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業では相手(生徒同士・教員同士・生徒教員相互)に敬意を払うとともに、ICT機器等も効果的に活用し、</li> <li>①外部への表現活動(思考して解く、他人に教える、理解しながら読む、振り返りながら書く、意見や考えを述べる等のアウトプットを含む活動)や</li> <li>②他者との協同等を意識した生徒主体の学習を、授業時間の2割以上とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公開・研究授業は、AL9の視点をもとに生徒の活動やICTの活用を積極的に取り入れ、延べ15名の教員が実施した。情報科では、分散登校の際にオンライン授業も実施した。</li> <li>・授業改革研修会は、外部講師を招いて1月に開催した。示範授業と研究協議により、探究活動における「問いづくり」について見識を深めた。</li> <li>・ALの推進のための県内外各種研修会については、多くが中止となった中で、数名がオンライン開催のものに参加した。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も全教科で公開・研究授業を実施し、学力向上に向けてAL9やICTの効果的な活用について、教員相互で意見や情報を共有しながら研鑽を積んでいく。</li> <li>・授業改革研修会は、教員の要望を取り入れながら、有意義な研修会となるよう検討し企画する。</li> <li>・各種研修会での成果の還元方策について引き続き検討していく。</li> </ul>
(注)外部への表現活動や生徒主体の学習等を授業時間の2割(=9分)以上取り入れることを「AL9」と呼ぶ。(以下同様)							
行事で団結・部活は熱中	地域から信頼される学校づくり	「八頭高愛し愛され運動」の参加者は第1回(6月)296名、第2回(11月)262名であり、全校生徒の半数を超えた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「八頭高愛し愛され運動」への参加者の割合(%)(全校生徒の60%以上)【2回の運動参加者数の合計】</li> <li>・地域課題について理解し、その解決に向けて取組む生徒を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・八頭高愛し愛され運動、中学生体験入学、翠陵祭、八頭高ライフ体験等の諸行事や学校生活等の様々な場面において生徒が主体となって企画・実施に取り組むとともに、その方法を下級生に引き継ぐことができるよう指導を行う。</li> <li>・地域の方と触れ合う行事を通じ、地域課題を考える機会とし、その解決策を総合的探究の時間、探究ゼミ等で探究し、八頭高生としてのアイデンティティを育む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・八頭高愛し愛され運動の参加者は、第1回(6月)が371名、第2回(11月)が297名、延べ人数668名であった。全校生徒数(767名)に占める割合は87%で、年度当初の目標値を大きく超えることとなった。例年行っていた地域貢献活動は、新型コロナウイルス感染症の影響で実施することができなかった。</li> <li>・昨年度行った試みの1つであった生徒にを対象とした歳末助け合い募金を、今年度も生徒会執行部主体で実施した。また、探究ゼミの一環として、地域課題解決に向けた提言を行う八頭町高校生議院に、今年度も参加予定である。(日程調整中)</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後とも八頭高愛し愛され運動に主体的に参加する生徒数の確保を図りながら、清掃活動以外にもできる地域貢献活動を検討していく。</li> <li>・地域課題解決の一助となるアイデアを積極的に提案し、生徒会執行部を中心として新たな試みを行っている。今後も地域に出向き情報を得る行動が必要である。</li> <li>・昨年、新型コロナウイルス感染症で現場に出向いて他者と触れる機会が減ってきている。このような時だからこそ、八頭高を知ってもらうための情報発信を行っている。</li> <li>・八頭町高校生議院を継続・発展させるとともに、地域をテーマにした探究活動の実施に向けた準備を進める。</li> </ul>
	生徒の悩みへの的確な対応	82%の生徒(保護者78%、職員94%)は、八頭高は心身の悩みに関わる相談について適切に対処していると考えている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・八頭高は生徒の心身の悩みに関わる相談について適切に対処していると回答する生徒・保護者の割合(生徒85%以上、保護者80%以上)【学校評価アンケート】</li> <li>・生徒の悩みへの的確に対応するため、教職員間の連携を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の生徒観察や声かけ、hyper-QUの分析・検討会、個別面談、教育相談・特別支援委員会、教育相談係・保健係連絡会、人権教育LHR等を通して生徒の悩みを把握する。</li> <li>・教職員同士がコミュニケーションを密に取り合い、保護者との連携も図りながら生徒が安心して充実した学校生活を送れるよう指導・支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価アンケートでは、学校が生徒の心身の悩みに関わる相談について適切に対処していると回答している生徒は86%、保護者は78%であり、生徒についての数値目標は達成された。</li> <li>・「いじめアンケート」を3回、「Hyper-QU調査」を2回実施し、悩みを抱えている生徒について情報共有を行うとともに、クラス担任、学年団、教育相談係を中心に該当生徒のケアや見守り(観察)を継続してきた。</li> <li>・要支援生徒についての定期的なケース会議を開催し情報共有を行い、クラス担任、学年団、教育相談係に加えて教科担任も生徒の状況把握するとともに、該当生徒のケアや見守り(観察)を行い、指導を継続してきた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度も「いじめアンケート」を3回、「Hyper-QU」を2回実施し、アンケート結果の情報共有を行い、生徒支援に活かしていく。また関係職員や保護者と連携をとり、いじめにつながる恐れのあることや困り感のある生徒に対する情報を共有をし、効果的な初動対応ができる体制を強化していく。</li> <li>・要支援生徒に対しては、校内での情報共有をはじめ、外部機関との連携を深めるような指導体制を充実させたい。</li> </ul>
	学習との両立を意識した計画的・効率的な部活動運営	自宅学習を毎日行っている生徒は59%(1年48%、2年63%、3年69%)であり、56%の生徒(保護者65%)が学習と部活動の両立を果たしていると考えている。体育コース生の全国大会出場は23名(延べ42名)である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習と部活動の両立を目指して、毎日自宅学習を行っている生徒の割合(60%以上)【学校評価アンケート】</li> <li>・全国大会に出場した体育コース生が30名以上であり、学校生活、部活動をリードしている。【実人数】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が向上心と意欲をもって粘り強く取り組めるよう、部活動の的確な方針や計画等を設定するとともに、学習と「両立」させた部活動運営を行う。</li> <li>・教科担任、クラス担任が部活動顧問と協力しながら面談等の指導を継続実施する。</li> <li>・体育コースでは、特色ある行事を継続実施し、学習面、生活面の充実を図り、学校生活、部活動のリーダーとしての自覚を促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価アンケートでは、学習と部活動の両立を目指して毎日自宅学習を行っている生徒は64%であり、数値目標は達成された。学習と部活動を両立した学校生活を送っていると回答する生徒は、全体の60%であった(部活動無所属等は全体の27%)。</li> <li>・感染症の影響で、高校総体等多くの全国大会が中止となった。少ない競技のなかで、全国大会に出場した体育コース生は10名(探究・総合コースは23名)であり、運動部活動において活躍するとともに、リーダーとして実績を残した。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス担任による面談、教科担当や部活動顧問による指導等で得られた情報を相互に共有し、連携を密に図りながら、学習や部活動について生徒個々へ具体的に適切なアドバイスが与えられるようにする。</li> <li>・今年度は全国大会等の多くが中止となった。今後とも体育コースの特色ある行事を実施し、自らの競技力を高め、全国レベルまで引き上げるような取組を継続するとともに、生徒の人格形成に寄与するよう努めている。</li> </ul>
進路に挑戦	高い志望に挑戦する意欲を持った生徒や第1志望を目指して地道に努力し続ける生徒の育成	進路を実現するために目標に向かって努力している生徒(10月)は、1年67%、2年74%、3年92%である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路実現に向けて努力している生徒の割合(1年70%、2年75%、3年95%以上)【学校評価アンケート】</li> <li>・生徒の学力向上を通じた進路実現に学校をあげて取組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア形成に関わる様々な事業や、各コース、各分掌及び学年等の諸行事について、その意図・意義を生徒にしっかり理解させ実施することにより、視野を広げるとともに生徒自身のキャリアデザインにつなげていく。</li> <li>・キャリア教育全体計画に基づき、キャリア設計講演会、「大学生に聞く」講演会、長期休業中補習、勉強合宿、サテライン講座の実施、土曜自習・質問教室などの活動を通してキャリア選択と学力向上を図り、進路実現をより確かなものにしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価アンケートでは、進路実現のために目標へ向かって努力している生徒は全体で84%(1年79%、2年76%、3年97%)で、数値目標はすべての学年において達成された。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響で、キャリア設計講演会など様々な進路指導に関する行事が影響を受けたが、リモート形式など実施形態を変更することでほぼ予定通り実施することができた。</li> <li>・国公立大学合格者を増やす取組としての放課後補習、二次向け補講については多くの生徒が受講し、進路実現に向けて努力した。また、共通テストの出願は130名であった。</li> <li>・今年度は探究コースにおいて学年の枠を超えて学びあうBridgeという取組を2回実施した。学びについて本質的な改善に迫る取組であり、成果を挙げることができた。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症対策を取りながらキャリア教育全体計画に基づいた講演会など、様々な行事についてより効果的に実施していくための工夫が必要である。</li> <li>・生徒の学力向上と進路実現を確かなものにしていくために、授業内容のさらなる充実、並びに放課後補習、放課後自習室、土曜自習室など、生徒が自発的に学習に取り組める環境づくりを継続していく必要がある。</li> <li>・難関大、ブロック大以上の大学を目指す生徒については、2年次の早い時期から添削指導を始めなど、高い進路志望を維持しながら学習に取り組ませることが必要である。</li> </ul>
	《探究》地元大学との積極的な連携、高い志望に挑戦《総合》多様な進路に対応、第一志望を目指す《体育》全国を目指す、基礎学力を確実に育成	国公立大学志願者(10月)は、1年149名(4月126名)、2年128名(1年4月126名)、3年99名(1年4月127名)である。大学入試センター試験受験者は143名(総合・探究コースの61%)であり、前年比1名減であったが、本年度は多くの生徒が5教科型で受験した。国公立大学合格者数は54名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国公立大合格者数の増加(60名以上)【3月末現役・過卒の合計人数】</li> <li>・生徒の学ぶ意欲を喚起するような進路指導に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒との個別面談等をおとして、1、2年生は所期の志望の実現に向けて強く希望進路を意識させ、その目標に向けて自律的に行動できる態度を育成するとともに、3年生は4月時点の希望進路の実現に努める。</li> <li>・大学・学部・学問研究の充実によって、将来のキャリアを見据えた上で何を学ぶべきかを考えさせ、具体的な進路目標に向けて努力する態度を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路志望調査(10月)による国公立大学志願者は1年133名(54.7%)、2年135名(51.5%)、3年94名(36.3%)であり、国公立大学の志願者が1年では4月の調査より18人増加しているが、2、3年ではやや減少しているもののほぼ例年並み。2年生の志望を維持していき取り組みが必要。4年制大学志願者全体は1年174名(71.6%)、2年182名(69.5%)、3年160名(61.8%)であった。専門学校志願者は医療・看護系志願者を中心に1年46名(18.9%)、2年40名(15.3%)、3年57名(22%)であった。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学・学部・学問研究の一層の充実のために生徒自身が主体的に進路情報を収集・活用できる環境を充実させる。また、大学の模擬授業や説明会などへの参加(特に地元国公立大学)を奨励し、具体的な大学進学目標に向け自律的に取り組む態度を育成していく。</li> <li>・高大接続改革で大学入試において小論文や面接指導の機会が増え重要性が増している。これに対応するため大学入試研究会等へ教員を派遣し指導スキルの向上を図り、指導方法の共有にも努めていく必要がある。</li> <li>・進路指導シラバスを作成し、LHR等を効果的に活用する。</li> <li>・多様な進路志望を持った生徒がいる中で、難関大を含む高い志望に向かって努力をする生徒を育成するためには国公立大志願者数の増加を図る必要がある。</li> </ul>
業務改善の取組	時間外業務の縮減	時間外業務の縮減と長時間勤務者の解消に向けて、改善点の洗い出しと実現に向けた手立てをおこなう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月あたりの時間外業務をH29年度比で25%削減する。</li> <li>・すべての部活動が部活動基本方針に基づいて適切に部活している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議・委員会等を可能な限り放課後に開催せず、日時程内に組み込み早めの退庁を促す。</li> <li>・学校行事等の準備の簡素化、各分掌業務の適正化を図る。</li> <li>・部活動基本方針に基づいた効率的で教育的な部活動運営を意識しながら、休養日や部活動時間を遵守する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間外業務については月ごとの平均ですべて前年比減少している、平成29年度比で24%の削減率であった。</li> <li>・今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、各分掌に付加的な業務が発生し、本来の分掌業務以上の業務に携わらなければならなかった。</li> <li>・部活動に係る時間外業務は前年比で減少してきている。部活休養日の確保、活動時間の遵守等の徹底に、まだ課題がある。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議・委員会の定例開催、会議方法のさらなる見直しを行い、時間短縮に努める。</li> <li>・各分掌内での業務分担を進め、効率化を図っていく。</li> <li>・時間外業務月45時間以内の実現に向けて、組織的に取り組んでいく。</li> </ul>